

救急外来 member

救急は24時間365日
私たちが、一丸となって
受け入れます!!!



甲府共立病院 外科外来のご案内

診療担当表

	月	火	水	木	金	土
外科 午前	内藤 恵一	吉田 正史 (1.3.5週)	吉田 正史	杉田 貴仁 (1.3.5週)	位田 歳晴	内藤 恵一 (月変動あり)
	河野 仁	林 宏篤 古田 潤平 (2.4週)		板垣 明	杉田 貴仁	
肛門外科 午後 (予約制)	休診	位田 歳晴	休診	休診	休診	休診

ご予約は代表番号 055-226-3131 へ

【受付時間のお知らせ】
午前 8時30分～11時

【外科休診】

月・水・木・金曜の午後
日曜・祭日・5月1日
年末年始(12月29日～1月3日)

※肛門外科は予約制で診療を行っています

※急患の方は、お電話にてご相談ください

乳腺外科と甲状腺外科の一般診療は、甲府共立診療所で行っております。TEL: 055-221-1000

ご紹介ください



女性に健康と安心を

甲府共立病院 産婦人科

- *やさしいスタッフが産産をサポートします。
- *3人の女医を含む4人の産婦人科医と、病院の全医師・スタッフが安全なお産と治療をサポートします。
- *母児同室と母乳哺育をお手伝いします。
- *婦人科疾患には腹腔鏡手術など負担の少ない手術、手術以外の方法もご提案します。
- *漢方専門医がしっかりと漢方治療を行ないます。
- *緊急避妊法、経口避妊薬も取り扱っています。

	診療担当表					2020年6月1日～
	月	火	水	木	金	土
午前 外来	松上まどか 千葉 想	深澤 喜直 鶴田 統子 千葉 想	深澤 喜直 松上まどか	松上まどか 千葉 想	深澤 喜直 鶴田 統子 千葉 想	休診
午後 (完全予約制)	助産師外来	助産師外来 産後健診	産後1ヶ月健診	すこやか外来 産後健診	助産師外来	休診

ご予約は、代表番号 055-226-3131 へ
月曜日～金曜日 9時～16時30分
土曜日 9時～12時30分

予約の変更・受診相談は水曜日・土曜日を除く14時～16時をお願いします。

【受付時間のお知らせ】 午前8時30分～午前11時

【休診】 土曜日・日曜日・祭日・5月1日・年末年始(12月29日～1月3日)



患者サポートセンターよりお知らせ

新体制になりました! 私たちがサポートします!



診療依頼

平日・受付時間内は、甲府共立診療所で診察を行います。但し、生活動作の状況や病態によっては、甲府共立病院で診察を行うことがあります。

入院相談依頼

可能な限り入院ができるようベッドを調整しております。スムーズな入院受け入れのため、右記のような情報をお尋ねしますがご了承ください。

- ① 患者様の氏名
- ② 生年月日
- ③ 病名(必要なデータなど)
- ④ ADL 状況
- ⑤ 認知症の有無



入退院支援担当者との面談の様子

スタッフ体制

センター長 医師(1名) 副センター長 副総師長(1名)
地域連携室 師長(1名) 医療相談室室長(1名) 心理相談室室長(1名)
看護師(7名) 社会福祉士(4名) 臨床心理士(2名) 事務(4名)

患者サポートセンター・地域連携室師長のご挨拶

このたび患者サポートセンター地域連携室の師長に就任した伊藤裕子(いとう ゆうこ)と申します。重責ではありますが、血液浄化室、地域包括ケア病棟、急性期病棟の経験を活かし、地域の皆様のご要望、ご指導を賜り患者さんひとり一人に寄り添いサポートできるよう精一杯の努力をしていく所存です。

本来なら皆様のところへご挨拶に伺い私どものめざす『「貧富の差によって生命の尊さが差別されてはならない」を基本に地域のひとびと、医療、福祉機関と連携し、いつでも誰にでも安全安心な医療・福祉をめざします。』を直接お伝えし、皆様の力をお借りしながら医療連携に励んでいきたいと思っております。しかし、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、医療機関・施設の皆様と力を合わせてこの難局に立ち向かっていくことが私たちの役割であると感じています。皆様に会える日を楽しみに日々の業務に励んで参ります。今後とも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



患者サポートセンター
地域連携室師長
伊藤 裕子

コロナに負けるな!リモート面会始まる

..... 入院患者様もご家族もスタッフも笑顔こぼれる涙溢れるリモート面会.....

院内感染防止のため、面会制限をしています。

療養生活が安心して送れ、回復に繋がる力になれば「リモート面会」を開始しました。曜日や時間帯等制限させていただきますながらの対応ですが、入院患者やご家族の笑顔にスタッフも元気をいただいています。



日本医療機能評価機構 認定病院 甲府共立病院 Kofu-Kyoritsu Hospital

gional Medical Liaison Office
News and magazine

地域連携だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように



Contents

- 患者サポートセンター長のご挨拶
- 総看護師長のご挨拶
- 血液浄化室の紹介と活動
- 患者サポートセンターよりお知らせ
- コロナに負けるな! リモート面会始まる

2020
7
JULY



公益社団法人 山梨勤労者医療協会

患者サポートセンター長のご挨拶



患者サポートセンター
センター長
平田 理

地域の医療機関・介護事業所の皆さま、いつも当院の医療活動へのご理解・ご協力誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染蔓延という経験したことのない困難な状況の中、地域の医療・介護に貢献しておられる皆さまに、心から敬意を表します。先日、当院職員のCOVID-19陽性確認に際し、救急外来を含む外来診療や新入院受け入れ等を一時停止する事態となり、地域の皆さまには多大なご迷惑をお掛けするとともに、多くのご支援を賜りました。あらためてお詫びとお礼を申し上げます。

当院では引き続き万全の感染対策を行いつつ、COVID-19疑似症受入病棟の設置など、当院に求められる役割を担いながら、これまで通り救急医療や病診・病病連携、医療介護連携に取り組んでまいります。引き続きよろしくお願いたします。

感染収束にはまだ相当の時間を要すると予想される中、受診控えや健診の延期等による健康上の影響や、感染蔓延を直接・間接の原因とした経済的な影響や生活上の困難から来る病状の悪化や診断の遅れが、今後増えてくることも懸念されます。また今まで通りの介護が受けられなくなっている方も少なくなく、ご家族の介護負担の増加やご本人の状態悪化が大変心配されています。これまで以上に皆さま方との協力・連携を強め、地域の人々に起こっていることを機敏につかみ、必要な医療・介護を届けていく必要があると考えております。

今までとは全く違った一年になることを見据え、日常の生活から医療活動のあらゆる場面で感染対策に細心の注意を払いつつ、今日の状況下で求められる当院の役割は何かを常に念頭に、皆さま方とともに、地域の人々に安心を届けられるよう、ご一緒に取り組んでまいりたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願申し上げます。

総看護師長のご挨拶

2020年4月から、総看護師長の任に就きました村松裕子(むらまつひろこ)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度まで、患者サポートセンター副センター長として、地域の医療機関・施設など直接お伺いして医療・介護連携につとめてまいりました。地域に出ることで改めて当院の役割と課題が見え、地域の医療機関や施設の皆様に育てていただいた思いでいっぱいです。

この間、多くの医療機関・施設からエールをいただきました。私たちの病院は地域の医療機関・介護施設等の皆様にどれほど励まされ、支えられていたのかということ、山梨の地域医療は深い絆があるのだということ、改めて感じました。

山梨県においても新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する医療活動が県内全域で行なわれています。

当院も発熱外来(現在:発熱・感冒外来)を設置し、疑いのある患者さんの対応を行なっています。まさに、人類が経験をしたことがないウイルスとのたたかいを全世界で行なっている状況なのです。

今、多くの医療現場において患者さんのいちばん近くで働く看護師たちは、不安や危険を抱えながらもその手を緩めることなく「患者さんのために・・・」その使命をはたすべく奮闘していることに、同じ看護職として深い敬意と感謝の念に堪えません。

地域の皆様も自粛を余儀なくされる中、日常生活が大きく変化しご苦労されていることと思います。また、当院に入院している患者様、ご家族の皆様も面会禁止の中ご不便をおかけしております。今しばらくご理解、ご協力をお願いいたします。

私たちの病院は「患者さん、職員、地域の人々が幸せになる病院」です。患者さん、職員の安全を一番に考え、みなさまと心をひとつに医療活動・看護活動に取り組んでいきたいと思ひます。最後に、一日も早い終息を願うばかりです。



総看護師長
村松 裕子

血液浄化室の紹介と活動

担当医のご挨拶

透析の治療を行う患者さんには、高血圧・狭心症・脳血管障害・感染症の合併頻度が高いことが知られています。これらの合併症は予後に大きく影響しており、当院ではこのような状態を早期に把握することはもちろん患者さんの生活史や家族背景、地域での生活を捉えながら、他の診療科とも連携し安全に治療が継続できるよう実施してまいります。



内科医長
木戸 美之

血液浄化室の紹介

● 概要 ●

ベッド数：52床

透析治療管理患者数(7/1現在)：150人(うち夜間透析治療患者数25人)

血液浄化室スタッフ数：33名

1973年に県内で3ヶ所目の透析施設として、甲府共立病院内に4床の透析室が開設されました。その後、治療が必要となる患者さんのニーズにも応える形で徐々に拡充し、2014年に現在の甲府共立病院南館が建設されたことを契機に移転、名称を「血液浄化室」と改めました。

日々医療技術が進歩する中でスタッフ一同研鑽を重ね、患者さん個々の状態に対応できるよう、機器の整備、設定等を行なっています。

現在は52床のベッドを有し、月・水・金曜日2クール、火・木・土曜日1クールで、外来・入院合わせて150名前後の患者さんへ透析治療を提供しています。特に夜間透析では日中仕事をしている方の生活を守るために、18時入室の患者さんも受け入れています。

スタッフは、医師2名、看護師14名、臨床工学技士14名、看護補助者2名、医療事務1名が在籍し、また、必要に応じて他科の医師や管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多くの専門職により、透析患者さんの治療と生活を支援させていただいています。



血液浄化室メンバー



52床のベッドが並ぶ血液浄化室

● 多科・多職種連携による合併症予防と対応

透析患者さんは、様々な合併症の可能性があり、日常生活の中で個々の状態に合わせた食事療法や運動療法、生活調整などが必要になります。医師や看護師、臨床工学技士による日々の透析治療の中でのケアはもちろんのこと、必要に応じて管理栄養士による栄養指導や理学療法士による運動療法の提供と指導、医療ソーシャルワーカーによる医療制度の相談など専門的なケアを行っています。また、整形外科や循環器内科、精神科、皮膚科など患者さんの健康問題に応じた受診の調整なども行い、必要に応じて血液浄化室での診察を受けることができます。

なかでも、フットケアとリハビリテーションは特徴的な取り組みです。

● フットケア ●

昨今透析患者さんの足の切断リスクが問題視されており、フットケアには特に力を入れています。独自に作成した透析患者の足病変のリスク評価よりスクリーニングを行い、全員の足を定期的に観察し、スキンケアや爪のケアを行っています。さらに、足病変がある方については、皮膚科や整形外科への受診勧奨を行い専門科での治療へと繋げています。また、必要に応じて皮膚科や整形外科からの指示に応じた創処置等を行っています。

透析患者さんの足の切断リスクの最たる原因は、動脈硬化による下肢の血管狭窄・血流不足が挙げられます。外来通院する全患者さんに下肢の血流評価の検査(ABI:足関節上腕血圧比、SRPP:皮膚再灌流圧)を勧め、検査結果を元に定期的に循環器内科医が血液浄化室内を回診しています。その診察から薬物療法、運動療法、カテーテル治療などが行われています。また、下肢の血管狭窄がある人の多くは冠動脈の狭窄があることも知られており、無症候で心筋梗塞に陥る前の段階で治療に繋がられた例もあり、フットケアに力を入れることで心血管合併症対策にもなっています。



全患者の足を定期的に観察・ケア

● 腎臓リハビリテーション ●

腎臓リハビリテーションとは、腎疾患や透析医療に基づく身体的ならびに精神的影響を軽減させるとともに、症状を調整し、生命予後を改善して、心理社会的ならびに職業的な状況を改善させることを目的とした、運動療法、食事療法と水分管理、薬物療法、教育、および精神・心理的サポートを行う、長期にわたる包括的なプログラムのことを言い、中でも運動療法には、フレイル・サルコペニアの改善、心機能の改善、protein energy wastingの改善、貧血の改善、睡眠の質・不安・うつ・QOLの改善、透析効率の改善、死亡率の改善など多くの利点があります。

当院における腎臓リハビリテーションの取り組みとしては、専門的な知識とスキルを有する理学療法士と連携を取りながら実施しています。透析中に専用の機器を利用し、寝ながら自転車漕ぎのような運動や重錘、ゴムバンドなどを利用した運動を提供しています。ある患者さんからは「透析中に運動をするようになってから調子が良い」という言葉も聞かれ、今後も継続、さらなる発展を考えていきたいと思ひます。



腎臓リハビリテーション指導士による透析中のリハビリの様子